

9月定例会・藤田議員の一般質問



旧山東幼稚園、利活用方針に変更はない

米原市民報

日本共産党米原市会議員

山脇正孝 Tel.52-1093

日本共産党米原市会議員

藤田正雄 Tel.55-1527

<http://www.jcp-maibarashigidan.com/>

藤田議員の一般質問

近江長岡駅バリアフリー化

Q、令和2年にJR東海と米原市が近江長岡駅のエレベーター等に関する確認書を締結した。その後令和5年度でエレベーター2基とスロープの実設計の予算が計上された。しかし、利用者の乗降介助をめぐって見解の相違が明らかになり、予算の減額措置が行われた。今回、再度経過を確認し、市としての考え方を問うものです。そこで乗降介助業務についてのJR東海の考え方に進展はあったのかお尋ねします。

A、JR東海とは令和6年度以降も継続して協議を続けてきておりましたが、乗降介助の考え方について一致が見られない状況が続いております。

Q、市の回答期限はいつと示したのか。それについてのJR東海の回答はあったのか、なかったのか。市の見解を問う。

A、乗降介助の主体は市であるとのJR東海の見解に変化はなく、本市としても、乗降介助は鉄道事業者が実施されるべきものという考えに変わりはないことから、新たな進展がない状況が続いています。

Q、令和4年7月国土交通省は「駅無人化に伴う安全・円滑な駅利用に関するガイ

9月定例会の一般質問の1日目トップに藤田議員が一般質問を行いました。今回のテーマは「近江長岡駅のバリアフリー化事業の進捗状況と今後の市の対応を問う」と「旧山東幼稚園および天狗の丘の活用方針について市の対応を問う」です。

ドライン」を作成している。の答申が提出されました。現在、近江長岡駅も終日無人駅であるが、このガイドラインはどのように認識して、どのように生かされているのか。

A、令和6年2月の近江長岡駅の無人化に際しては、ガイドラインの事例にもある、モニター付きインターホンがついた券売機やセキュリティカメラ、スピーカーなどを設置して対応されており、当然、ガイドラインへの認識はあるものと理解しています。

Q、「ガイドライン」の中で乗降介助は誰がすべきとされているのか。

A、このガイドラインでは、無人駅の機能向上に資する各種事例として、列車乗務員による乗降介助の事例が紹介されております。近江長岡駅については、当然、バリアフリー化される場合には、鉄道事業者がガイドラインに沿った乗降介助を実施すべきと考えております。

旧山東幼稚園・天狗の丘の活用方針

Q、令和7年3月に山東幼稚園が閉園しました。参加された多くの関係者の方々から、しっかりと活用してほしいとの強い希望が出されました。振り返れば令和3年度においては「米原市幼稚園の在り方検討委員会」では、施設は、地域に配慮しながら、可能な限り子どもに関連する用途とすると

A、大規模修繕については、幼稚園の閉園を決定する前に算定したものであり、幼稚園として施設を継続利用する前提で算定しています。施設の転用の際には、施設の用途に応じた工事等が必要となりますので、その費用が発生するものと考えています。

雑感

9月10日の米原市議会政治倫理審査会が開催され、審査請求者を代表して山脇議員、視察に参加された振角議員、藤本議員に対する聴聞（公開）と、職員3人に対する聴聞（非公開）が行われました。その中で議員や職員の生々しい証言が出されました。磯谷議員は、職員に対して「死ぬ」「殺す」「指を詰める」など暴言を繰り返して、同僚議員に対して、「自分以外の議員はアホばっか」「おままたと議員」「お前の仕事は30万円のうち3千円の仕事しかしていない」などの暴言のほか、仲裁に入った議員に殴りかかるなどの行為が行われたことが証言されました。証言された事実関係を整理し、9月17日19時から第3回目の審査会が開かれ、磯谷議員の弁明が行われます。審査会は公開で行われますので、傍聴できます。